

午後3時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番柴山恭子議員の質問を許可します。12番柴山恭子議員。

（12番柴山恭子君登壇）

○12番（柴山恭子君） 私の父は、玉砕地ガダルカナルからの帰還兵です。空き缶を持っていたことで食べ物に火を通すことができ、生き延びられたと話しておりました。母は、八幡大空襲の経験者です。B-29の焼夷弾45万発は、無差別に住宅地に投下され、町は火の海となり、約2,900人が焼き焦がれ犠牲となったそうです。

第2次世界大戦が終わり、今後、悲惨な戦争は2度と起こさない。戦争放棄・戦力の不保持・交戦権の否認は、日本人にとって平和の御旗であります。

しかし、ロシアによるウクライナ侵略は、力による他国領土の蹂躪が現実になり、破壊と殺戮が行われているということを見せつけました。ウクライナにとって、力には力で対抗しなければ国は維持できないのでしょうか。

ロシア、中国、北朝鮮、隣国3国は核保有国であります。いつでも攻撃できる現実があります。ロシアは北方領土を返還せず、中国は尖閣を狙う。ともに広大な国土を持ちながら、なぜに日本という小さな島国を狙うのか。平和憲法の下において、日本の安全をどう守るのか。私たちに、今、突き付けられています。

今年5月31日、立石小学校6年生112人は、太平洋戦争末期、B-29爆撃機により、当時、立石国民学校児童31名が犠牲となった頓田の森への経路をたどりながら、飛行学校生徒隊正門跡、どんどん橋、一ツ木延命地蔵を訪ね、当時の説明を受けたそうです。子どもたちは戦争をどう感じたのでしょうか。今後、平和講演会、平和記念館見学、平和の花園の清掃活動、長崎の平和像の訪問の予定があるようです。

朝倉青年会議所は、一面の竹やぶをチェーンソーで切り倒し、根を掘り上げ、頓田の森平和花園として整備を行いました。これは、地域の人や子どもたちに、こんな身近な場所で戦争の悲劇があったことを決して忘れてはならないとの思いからです。理事長は言います。「この平和の花園に多くの人に来てほしい。そのために、大型バスが止められるよう、駐車場の整備もした。市内だけでなく、朝倉郡域修学旅行などでも来てほしい。この悲劇を繰り返さないために。この花園で、平和は当たり前ではない。平和のありがたさを考えてほしい」という強い思いがあったようです。

朝倉青年会議所のこの平和への強い思いを応援すべきであり、私どもができることは、頓田の森平和花園の1本の草を抜くこと、花を植えることでしょうか。そして、いつまでも地域にとって平和のシンボルであり、平和を願う人々の憩いの場であらばと思います。まず、私たちにできることから始めること。これが、戦争の起こることのない世界へとつながればと考えます。

私は、市長第2期目、その中にあります「誰もが住みたい朝倉を目指す」というのがあ

りました。自席より林市長にお尋ねします。この「誰もが住みたい朝倉」をどう実現されようとするのかをお尋ねしたいと思います。よろしく願いいたします。

(12番柴山恭子君降壇)

○議長(半田雄三君) 12番柴山議員。

○12番(柴山恭子君) この中に、つよい「朝倉」、防災拠点、防災広場、伝承広場の整備とありますが、このことについて、まず、市長の考えを伺います。

○議長(半田雄三君) 市長。

○市長(林 裕二君) 伝承広場でありますけれども、今、壇上で議員が言われましたように、頓田の森の話であります。戦争が起きてはならないと。これは、青年会議所が考えて実行してという話でありました。

伝承広場につきましては、災害がひどかった松末地区に設置を予定しているものでありまして、平成29年災害の象徴的な、山が崩れて、大きな被害が出て、それに対応するような格好で国交省が砂防施設を3基、今、造った場所でございますけれども、そこに予定をしているところであります。まさしく、平成29年7月5日、ここ朝倉市、この地で大きな災害があったといったことを後の時代にきちっと語り継ぐ、あるいは勉強する、そういった場として考えて、これから整備を予定しているものでございます。

それから、防災拠点、防災広場につきましては、災害からの復旧、それから復興、つよい「朝倉」をつくっていくという考えのもとに、それぞれ合併した小学校の跡地において、久喜宮地区には、もう既に整備が一応終わるという格好になっておりますけれども、災害時にしっかり対応できる、そしてまた、災害前に防災意識の高揚、あるいは、避難訓練等はできる、そういった施設を杷木の久喜宮、それから志波小学校跡地、それから、杷木小学校には防災広場を計画をしております、それぞれ今申し上げたような考え方もって、これから整備を加速させるということにしておるところであります。

○議長(半田雄三君) 12番柴山議員。

○12番(柴山恭子君) 防災拠点が、それでは久喜宮小学校跡地が防災拠点となるわけですか。防災拠点。

○議長(半田雄三君) 市長。

○市長(林 裕二君) 久喜宮小学校跡地は防災拠点施設、そして防災広場ということで考え、整備したところであります。

○議長(半田雄三君) 12番柴山議員。

○12番(柴山恭子君) 青年会議所が頓田の森の花園を整備して、これを皆さんに伝えていって、皆様の方で何とかしたいという思いがあるように、やはり朝倉市としても、防災の伝承をするためにそういう伝承広場の整備をしたいとおっしゃいました。ですね。

私は、以前ボランティアであそこに行きました、陸前高田に。そのときの防災、そういうふうなところは、ここまで津波が来たというところに桜を植えることでした。次に津波

が来たときは、みんなあの桜の木よりも先に逃げなさいと、そういうことで、広場づくりというのか、目安というのか、そういうものがありました、ここの、その防災広場、伝承広場整備というのは、そういうふうな逃げるための何か指針となるようなものはありますか。

○議長（半田雄三君） 総務部付部長。

○総務部付部長（藤浩二郎君） お答えいたします。平成29年7月九州北部豪雨による土砂災害の経験と教訓を後世に継承するために、併せまして防災学習の場にもなるように、現に機能している砂防施設などを活用しながら、被害状況のパネルの展示などを行うものを防災広場の整備として、今、復興推進室のほうで実施しております。

具体的には、先ほど市長のほうからもありましたように、松末地区の崩谷川という砂防堰堤整備がされているところがあるんですけども、その下流に整備を予定しております。

それと、先ほど市議のほうからありました、今後の避難の目安となるようなというところの話があったかと思えますけども、朝倉市内の事例でいいますと、蜷城コミュニティセンター、あちらのほうに、平成28年西日本水害の浸水推移というのが示されております。このような形の整備っていうのは、後世に伝える大事な手段と我々としても考えておりますので、今回整備予定の伝承広場につきましても、経験と教訓を後世に継承し、このことが有事の際に活用されるよう、今回の土砂災害に関してそれがどこまでできるかというのはこれからの検討になりますけれども、整備のほうを図りたいというふうに考えております。

以上になります。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それではお尋ねします。

今、市長のお話を聞きますと、大きな被害を受けた地域のみでの防災拠点づくりと聞こえましたが、防災拠点や防災広場づくりはこれでよいと思われませんか。

○議長（半田雄三君） 総務部付部長。

○総務部付部長（藤浩二郎君） まず、現在、復興推進室で行っております防災拠点施設整備及び防災広場の整備について、制度について説明させていただきます。

被災地域を中心に、令和元年度から5年間で、国土交通省の社会資本整備交付金の採択を受けて、今現在、実施している状況にあります。

そのことから、それ以外の、被災地域以外の地区に採択を希望する場合は、新たに国及び県と協議を進めながら採択の手続が必要になります。以上です。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 被災地区以外につきましても、ほとんどのコミュニティセンターが市指定避難所としての役割を担っております。そのことから、避難所としての機能に配慮した整備に心がけていますし、国交省補助の防災拠点として整備するかに関わらず、避難所として、また防災学習や避難訓練の場としての利用ができるようにしていると

ころでございます。

防災広場の整備やコミュニティセンターの防災拠点施設としての機能拡充につきましては、個別具体的に検討していく必要があると考えております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 例えばどのように。

○議長（半田雄三君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 復興推進室で整備しております防災拠点、非常用の電源でありますとか、防災広場にはかまどベンチでありますとか、そういうふうな避難所機能の充実をコミュニティセンターのほうでどのように個別具体的に検討をしていくかというふうな課題があると思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、コミュニティセンターに全て任されているということですか。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今、担当部長、そしてまた復興推進室長が、いわゆる事務的な形で答弁をいたしたところであります。

議員がお尋ねの地域任せかということにつきましては、まずは、新たにコミュニティセンターを造る、あるいは今あるコミュニティセンターをどのように活用していくかということを考えます。

このことにつきましては、まず地域のほうで、どのようなことをすれば防災拠点として機能することになるのかといったことについて、地域のコミュニティの皆さん方でよく話し合い、検討をしていただくということが大事だろうというふうに思います。

まずは、災害があったとき、あるいは防災の観点から見たときに、地域の人たちが、やっぱりそれぞれが協力をして対応をするということになりますので、今申し上げたように地域でよく話し合っ、こういったことが必要じゃないかといったことをある程度進めていただいて、そのことに対して市としてきちっと対応していくと、話を聞いて議論を進めていくという形を取りたいというふうに思います。

当然、必要であれば、市の職員が出向いて、その話合いの中に入れていただく、あるいは、必要な情報等を御提供申し上げるということに対応することが一番いい形ではないかなというふうに考えているところであります。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 事務局の皆さんは御存じでしょうか。私たちのコミュニティ、立石コミュニティでは、幾度となく防災広場づくりを提案してきました。これは、立石1万1,000人の住民が、果たして災害のときにどこに逃げればいいのか分らなかったからです。

立石コミュニティ前のあの市の広場を何とかして防災広場にしてほしい。せめて看板だけでも上げてもらえないだろうかというような要望は、私は何度も何度もしているつもりです。そして、立石の住民が——これは、立石というのは、私は非常につらいのですが、私がいる情報というのは立石ですので、とりあえずは立石の話をしていただきます。

立石の住民が、いざ災害というときにどこに逃げるのか。せめて、「ここは防災広場ですよ」、水があつてトイレぐらいはありますというような防災広場をつくってください、せめて看板だけでも上げてくださいますと言っているのに、なしのつぶてではないでしょうか。何が地域コミュニティで話し合つて、それを職員と一緒に話し合つて何とかしたいというの、大体なんですか、これは。

○議長（半田雄三君） 答弁のほうはいいですか。

総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 議員におかれましては、立石コミュニティ、もしくは、立石の防災広場ということ为例に上げて御質問がございましたが、私が答弁した分につきましては、それぞれの地域でそれぞれの御事情がありますし、施設の状況も違いますので個別にお話しをさせていただきたい。それをするときには、その地域の住民の皆様の合意形成が必要だというふうに理解しております。行政が一方向的に進めるのではなく。そういう意味で、お話し合いなどがあるときには、職員が参加する場合もあるというふうに理解しております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） だからどうしようと思つていますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 先ほど申しましたけども、それぞれ個別にお話し合いをさせていただきたいと思つています。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、私が何度も何度も、せめてここは防災広場ですよ、立石の住民のためにここに逃げてくださいな、という一般質問で申し上げたのは、全然皆さんの耳には届いていなかったということでしょうか。

○議長（半田雄三君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 以前の柴山議員の御質問等を確認させていただきますと、令和2年にも同じような質問を頂いているところでございます。

ただ、私どもの勉強不足なところがありまして、併せまして、今回の災害を機に、防災広場の整備を被災地区のほうでは今図つておるところでございますので、これについては、復興推進室長の私が超える範疇かと思つてはおりますけれども、執行部のほうで真摯に受け止めて検討をしていく必要がある。また、コミュニティのほうとのお話しの場を設けていく必要があると思つております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） よろしくお願ひします。

本来は、コミュニティはそれぞれに一生懸命地域の防災対策を考え、いろいろなことをしているはずです。大きな被害を受けた地域のみので防災拠点づくりではなく、防災広場づくりでいいわけがありません。

市長も、「誰もが住みたい朝倉を目指します」と書いてあります。被害を受けたから、その被害を受けたところだけに何かを集中してつくるというのではなく、朝倉市全体に広くそういうものをつくってほしいと思います。

もう1つ、皆さんのお話を聞いていると、どうも災害は豪雨災害だけに限定されたものかなと感じますが、そうなんですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 朝倉市地域防災計画では、台風、異常降雨、地震、大規模事故による災害など、多岐にわたり想定しておりまして、豪雨災害だけということではございません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） だから言っております。朝倉市は、警固断層による地震を想定すると。これは防災計画に書いてあったんですよ。「震度6弱、一部に震度6強となる地域があり、死者213人、負傷者2,785人と想定され、避難者は4,563人と想定される」と書いてありました。

例えば、甘木町のように、古い住宅が密集する地域において、地震による大火に備えが必要であろうと思います。

1万を超す人口に膨れ上がった立石住民は、日頃より防災に対しての力が必要と思いますが、このあたりをどう考えてありますか。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 防災意識が高まることが肝要であります。そうすることによって、防災広場なり、防災拠点施設なり、そういった施設が本当の意味でその役割を果たすことができるということだろうというふうに思います。

新たに、例えばコミュニティセンターを改築する際には、それぞれのコミュニティの防災拠点となり得る機能を持てるよう整備を進めることが大切であります。

最も大切なことは、コミュニティ内の合意形成。久喜宮や志波では、設計をいたす前にまちづくり協議会やワークショップなどを開き、検討を重ねられまして青写真をつくっていただきました。青写真をつくるためには、コミュニティだけでなく、先ほど申し上げましたように、必要であれば本市の担当職員も参加をさせるというような形で、コミュニティが一定の具体案を整理いただいた上で、実行できるかどうかを検討をさせていただくということと考えております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 久喜宮の人口はどれくらいでしょう。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 教えます。世帯数472、人口、この資料には1,632と書いてあります。

久喜宮地区は、それぞれに昔から住んでいる人が多分多いのだろうと。だから、意見形成も取りやすく、いろんなことができやすいのだろうとは思いますが。

しかし、立石地区において、1万を超える人口に膨れ上がったこのまちの中で、どうやってそういうことをするのか。これは市の強力な指導力が要ると思いますが、どうでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 人口が大変多ございますし、世帯数も大変多ございます立石地区などで議論を進めていくには、非常に労力が必要かと思えます。

現在、既にコミュニティ協議会の組織などもございますので、そちらなどからも協力いただいで、話合いの場をつくり、そしてそれぞれの区などに下ろしていただくような方法なりを取る必要があるかなと、今のところは考えております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それを行政としてどう指導していきますか。具体的な指導方法が欲しいんです。

私たちは防災士会をつくり、約22名の防災士が活動する方法を持っています。

しかし、それだけでは立石の住民を守ることはできないんです。何かが必要。その何かが分からない。

皆さんの言う久喜宮地区では、コミュニティが力を合わせて計画を立て、それを市が見てこういうふうにしたとおっしゃいますが、それでは立石ではどういうやり方があると思われませんか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 現在どのようにしてそれを進めるかという具体的な方法は持ち合わせておりません。申し訳ありません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 私は、各コミュニティの地域防災力の強化を、行政の皆さんが何から始めようと思っていらっしゃるのかが知りたかった。

だから、例えば久喜宮の人口の少ないところ、立石の人口の多いところ、何でもかんでもいっしょくたくりにして同じようなやり方ではできないでしょう。違いますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） おっしゃるように、地域によってそれぞれの事情が異なりま

すので、そういう合意形成を進めていく手段としては違ってくると思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） だから何から始めるんですかって言っているんですよ。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） そういう進める手順等も含めて、まだ決まったものがございませんので。申し訳ございません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 地域防災力の向上は、行政とコミュニティが手を携え、一生懸命それぞれにやっていくことで強力な力がつくと思いますが、朝倉市は、地域コミュニティ対してどんなふうにつくり上げようと思っていらっしゃいますか。

十把一絡げ、どこのコミュニティこのコミュニティも同じような形でコミュニティが形成できると思われませんか。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 市内の各コミュニティの特徴っていうのは、もちろん、それぞれ、おっしゃるように、違います。久喜宮地区の特徴でありますとか立石、それぞれ特徴が違うところもあります。

逆に言いますと、立石地区の場合は住民の方の数が多いという中で、それだけ合意の形成というのは確かに大変なところがあるかもしれませんが、逆に言うと携わる方が多いということも言えると思います。

その中で、それぞれのコミュニティの中で、これまでも合意形成のやり方っていうのはそれぞれ整えられてきていると思います。そういった中に市のほうが中に入ってきて、どういうふうな方向性を御提案するかというところはあると思いますので、一概に同じやり方で、コミュニティ全て、市のほうが同じやり方を取るようなことはないかなというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 副市長の話も確かに分かりました。

でも、私が今聞きたいのは、コミュニティの在り方ちゅうのは、今のこの朝倉市のこのコミュニティの在り方でいいのですかとお尋ねをしております。

分かりますか。分かりませんか。

まず、コミュニティセンターちゅうのはどうやったつくり方をするんですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） コミュニティセンターの設備等につきましては、これまで地域に……（発言する者あり）それぞれの経過がこれまでであったと思います。これまでの。それらを踏まえながら検討していく必要があるかなと思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 設備とかそういう話をしているのではありません。

コミュニティというのは、どういう形でつくろうと欲しているかと尋ねています。（「組織で」と呼ぶ者あり）分からんかね、言いたいことが。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 現在は、各地区でコミュニティが組織されておりますが、例えば、合併前の甘木市ですと振興会組織があったりとか、また、朝倉地域では3つの地域ございますけど、コミュニティとしては1つという単位で組織されておりましたりして、その地域の経過があると思います。

ですので、コミュニティ組織をどのようにするかということは、ちょっと一概には申し上げられないと思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 合併して何年ですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 15年ほど経っていると思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） そうなんです。私は合併したときに議員になって4期目ですから、来年まですれば16年。だから15年ぐらいですよ、合併して。

その間にコミュニティの在り方を何も考えず、ただだらとこのままのコミュニティであっていいと思われませんか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） コミュニティ組織の在り方につきましては、それぞれの地域によって組織の仕方も違ってきております。

現在の組織でうまく運営をされているところもあれば、課題を抱えているところもあるかと思いますが、こうすればいいという具体策を持ち合わせておりません。申し訳ありません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） コミュニティの組織の話をしているのではありません。

どの地域に……。私の思いの中では、各小学校地域に1つのコミュニティという考え方を持っておりましたが、違いますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 例えば、朝倉地域ですと、小学校は2つございますけどもコミュニティは1つということで、地域の皆様との合意形成の中で現在のコミュニティができていくものと理解しております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 確かに朝倉はコミュニティは1つですが、地域としては3地域と

して認められております。違いますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 以前より3地区があったことは存じております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 存じ上げておりますじゃなくて、朝倉は地区加算が246万円。普通のところは82万円です、1つのコミュニティに対して。ということは、地区加算3つ分が朝倉には行っているということです。違いますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） その点に関してはそのとおりでございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） だから、申し上げているのは、例えば、上秋月の世帯数253、立石の世帯数4,194が、同じ一括りのコミュニティでいいと思っていらっしゃいますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 地域のコミュニティに交付している補助金の件だと思いますが、それについては、地区ごとの単位の補助の枠がありますので、現在、朝倉地域が3地区分ってなっているのは存じております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） コミュニティセンターの在り方を考え直してほしいと言っているんです。

いいですか。従来、立石は4人ぐらいの任用職員をもらっていますが、これは週4日、1日7時間15分しか働けません。この人たちが8時30分から5時15分、8時間45分を働こうと思えば無理な話です。

いいですか。7時間何分しか働けなくて、1万人以上の住民がそこに集まってきているような活動をする中で、何でもかんでも任用職員はどのコミュニティにも3人、補助金は一律幾ら、人口割幾らというような考え方は、もういい加減でやめてもらえませんか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 今現在、お答えできるものを持っておりません。申し訳ございません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 少しは私が言いたいことを分かっていただけかもしれません。まるきり分かりませんか。ありや大体何言いよるんちゃろうかち思っちゃいます。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） おっしゃっていることについては理解をしているつもりです。申し訳ありません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 災害においては、普段からの共助の取組が災害時の減災への礎となります。日頃から住民とコミュニティはともに動きながらやることで、災害時にも何とか対応ができるのです。

例えば、蜷城は個別避難計画はもうできているんですよね、大体、あらかた。それから、何町やったかな、琴平町やなかった、熊本議員の地域も、恵比須町も個別避難計画が出来上がっているそうです。

それは、でも、立石では無理なんです。何とかしようと思うけど、人数が多すぎてどうにもならない。ましてや防災無線も届かない、地域無線もない立石において、月1回の回覧板では1万1,000人の皆様に情報を提供することは無理です。

防災計画の中にも、地域情報網の充実とあります。技術伝達の調査研究とありますが、

朝倉市は大体どのような調査研究をなさっておりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 個別避難計画につきましては、保健福祉部と連携しながら、現在、対象者の抽出を行い、各地区コミュニティの自主防災組織と打ち合わせながら、実際に避難の際に支援が必要な方の特定などを進めている段階でございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） だから、人口が多くても少なくても同じようなやり方をやるんですかと言っているんです。違いますか。

そして、何ていうか、鹿毛議員は、人口が減って大変だ大変だとここでおっしゃいました。立石は、人口が増えて増えてどうしようもない。情報も提供できない。いろんなことができないこの立石において、どうやったらコミュニティの活性化になるのか。これは市長にお尋ねします。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 市長は、ここに書いちゃった。コミュニティの整備と活性化。私は立石コミュニティを活性化したい。でも、にっちもさっちもいかんごととなる今のこのときに、市長は手を差し伸べるべきです。どうぞ、市長。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） コミュニティと行政が連携、力合わせて地域の活力を失わないようにやっていく、地域が元気になっていくことをやっていく、あるいは、公民館活動からつながっていますいろんな活動をやっていただく、そういったことは極めて大事であるというふうに考えましたので、議員が御指摘のような形で、表明をさせていただいて、これに向けて頑張っていこうということでございます。

コミュニティが、もう極めて、朝倉市の場合は、人口から見ても非常に難しい、対応が。

まして災害がございましたので、これに向けては、やっぱり災害からの復旧・復興を、ある意味活用をして、コミュニティ施設等を今整備ができていくということになります。

今日の答弁の中でちょっとかみ合っていない部分がありましたけれども、私が申し上げたいのは、地域の活性化、特に安全安心とか地域活動をやっていくためには、今回、三奈木コミュニティが、県道の工事の関係でコミュニティ施設を建てるというチャンスができましたので、これは地域の皆さん方と行政がよく話しをして造っていく。その際に、防災広場を今計画をしているということでありまして、立石コミュニティの実情は当然把握をさせていただいております。これまでも何もしなかったかというとは、少しは議員の意見もお聞きをしまして、コミュニティの会長さん、あるいは幹部の皆さん、事務局の皆さん方からも、ふるさと課を中心にお話を聞いて、対応するのは不満であればしようけれども、何もやってきてこなかったとちゅうことではないというふうに思っています。

これから先、非常に、立石コミュニティの、議員が今日提起されております、以前から言われておりますことについては、大事なコミュニティの活動をしっかりやっていただく。そして、行政とともに立石校区の課題を解決しながら、そして、ある意味では、朝倉市を牽引するような立石校区に、私はなっしてほしいと——特に人口が増えていますから、そういったことも考えておりますので、よく話し合いを、真摯に、相互でやっていきたいというふうに考えていますので、御理解を頂きたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 理解しました。これから先は、行政がどんどんコミュニティに入り込んで、コミュニティの活性化に向かって頑張っていくと受け取りましたので、よろしくお願いいたします。

そのためには、ふるさと課、コミュニティ推進係ちゅうのがありますよね。まだあるでしょう。コミュニティ推進係の人数が少ないんじゃないんですか。それほどコミュニティに活性化したいなら、推進係の人数を増やし、各コミュニティに派遣されたらどうでしょうか。違いますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） ふるさと課に配置するコミュニティ推進係の職員、併せまして、各コミュニティセンターに配置しております職員と協力しながら、現在、コミュニティの運営、事務に当たらせていただいております。職員たちもそれぞれ忙しい中で頑張っているというふうに理解しています。

これで人が足りているのかということにつきましては、いろんな部署との関係もございまして、一概には申し上げられないと思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 分かつちよりますが、頑張っしてほしいと言っています。

皆さん御存じです。コミュニティの開館時間は8時30分から10時までです。会計任用職

員は週4日7時間15分勤務です。役所は何と言うのかというと、「時間が足らなければ、ほかの日に休みを取りなさい」と言っているんですよ。いいですか。ほかの日に休みが取れるぐらいなら、何ちゅう問題はありませんよ。休みも取れない、残業もしなければにつきもさっちもいかんからやっているんです。これはうちだけじゃなくて、どこのコミュニティも変わりがないと思います。

このあたり、よくよく検討されて、今後のコミュニティの在り方ちゅうのを、今は小学校単位、小学校のない上秋月もあります。本来小学校単位であったはずのものが、小学校がないところにもありますし、いろいろ考え方があってしょうけれど、きっちりいろんなことを考えて、コミュニティは今後どうすれば地域の安心安全のために活動ができるのかというのを考えてほしいと思います。

最後に、地域情報網の充実についてお尋ねをします。

情報伝達手段の拡充として、防災行政無線等、既存の維持機能強化というのが書いてありました。

また、これ以上、多重化・多様化に向けた伝達技術の強化となるような調査研究とありましたが、朝倉市においては、私が何遍質問しても、スマホで十分ですという答えしか返ってきません。いろんなところを調査しましたが、やはり若い子にはスマホで情報を促し、高齢者には個別無線で情報を流し、かつ、市役所からの情報だけではなく、各コミュニティから住民に対しての情報も流す必要があるんですが、このあたりどう考えてあるかをお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 市民一人一人への情報伝達、これらを確実に伝達するためには、1つの伝達手段に頼らず、複数の伝達手段を組み合わせることが重要であり、情報伝達手段の多重化に努めているところでございます。

防災行政無線をはじめ、携帯電話会社が運用しています緊急速報メール、福岡県防災情報システムを用いてテレビ局各社が行うLアラート、消防団による広報、その他、防災メール・まもるくんや防災行政無線テレホンサービス等を用いることで、情報の伝達に努めてまいりたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それだけでは足りません。これだけ防災、防災と言いながら、要援護者を救いたいと言いながら、たったそれだけのことで情報伝達ができると思っていられません。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） どの情報をどれだけ組み合わせれば絶対かということは申し上げられませんけれども、現在ある仕組みを利用して、精いっぱい情報を届けたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、体の動かない人、その他いろいろな要援護者にとって、情報は入ってこなくてもいいと思っていらいっしやいますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 体の動かない方とか、そういった方に情報が届かなくていいというふうには全然思っておりませんが、例えば災害時ですと、その方を支援する地域の方であるとか、御家族であるとか、いろんな方の御協力を得ながら、そういった方の支援にも努めていきたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それができないからここで訴えているとじゃありませんか。それが簡単にできるのであれば、こんなふうには言いませんよ。立石と甘木には有線放送がありませんので。まだまだほかの地域には有線放送があります。それで何とかなっていると思いますが、立石は広報紙月1回、回覧板月1回でどうやっていろんな情報を流せとおっしゃる。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 行政情報と災害時の避難の情報はちょっと分けて考えたいと思いますが、通常、基本、行政情報の場合ですと議員もおっしゃった市広報紙ですとか、それからホームページであるとか、そういったことを御覧いただくようになります。

災害時の避難の情報につきましては、先ほど申し上げましたように、いろんな仕組みを重ねて避難の情報発信をしたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 朝倉市というところは、住民の皆さんに公平に情報を提供しようという心構えはないんですか。いつも私が質問するたんび、スマホで何とかなる、防災何とかまもるくんで何とかなる、そういうことばかりおっしゃいますが、近隣を見回しても、筑前町にしても大刀洗にしても、きちっと個人に情報が流れるようになっておりますが、朝倉市としては全くそれは考えないということですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 情報の伝達に公平性を欠くということを是認するものではないと思います。皆様に同様の情報を伝えるべきというふうに考えております。

通常、平常時ですと、ゆっくりありますから、広報紙でということも可能かと思いますが、非常時におきましてはそれではいけませんので、いろんな方法を今後も考えていきたいとは思っています。

ただ、今現在お答えできるものとしましては、先ほど申しましたスマートフォンの活用のほかに、テレビ局へのテロップが流れるような仕組みであるとか、防災メール・まもるくんであるとか、そういったことを活用して情報をお伝えしたいということでございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、地域情報はどうやって流します。「今立石コミュニティの前まで水が来ておりますので皆さん逃げてください」というような情報は、どうやって流すんですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 避難に関する情報につきましては、防災行政無線、屋外拡声器等で広報をするようにしています。

○議長（半田雄三君） 12番柴山恭子議員の質問は終わりました。

○12番（柴山恭子君） ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、明日15日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後4時10分散会